

Gp-004

会場：C402

時間：6月6日 14:15-14:30

丹沢トータル岩体の貫入メカニズム

Emplacement mechanism of Tanzawa tonalite

金丸 龍夫[1], 高橋 正樹[2]

Tatsuo Kanamaru[1], Masaki Takahashi[2]

[1] 茨大・理・地球生命環境科学, [2] 茨城大・理

[1] Environmental Sci., Ibaraki Univ, [2] Environmental Sci., Ibaraki Univ

丹沢トータル岩体の帯磁率異方性を測定した結果、丹沢トータル岩体の貫入形態は、母岩が沈降することにより出来る空間を下に存在したトータル岩マグマが岩体周縁部にあった供給源から上昇し、充填するようなものであったと思われる。

丹沢トータル岩体中に産する synplutonic dyke の産状と横ずれ変形から、トータル岩体は南北に開口しやすい場に置かれていたことが考えられる。現在露出しているトータル岩体は東西に細長い形態はもこのことに矛盾しない。つまり丹沢トータル岩体は北西 - 南東、もしくは北東 - 南西方向のずれを伴うプルアパートタイプの岩体であると考えられる。